

# 同窓会報

NO.36  
1990.2

発行——山形県米沢市門東町1丁目1番72号 九里学園同窓会事務局 TEL 0238-22-0091



「学園の米寿を祝う会」 1989.9.10

昨秋九月十日、「学園の米寿を祝う集い」が盛大に催されました。沢山の同窓生を迎えた旧校舎は、すっかり化粧直しをして澄まして立っているのをご覧になつて驚かれた方は少なくないでしよう。

「88Yeres Ago」全てはここから始まつた。」

祝賀会場に掲げた生徒会のスローガンです。温故知新、伝統の育んできたものを正しく受け継ぎ、新しい校風を築いて行こうという生徒達の心意気の表われです。

おめでたい米寿の年、心に残る何かをと、生徒会でもあらゆる分野に働きかけてきました。六月の東北高校総体では、陸上部が総合優勝を果たし、全校生の意気を高めてくれました。

「米寿を祝う集い」も生徒達に強烈な刺激を与えてくれました。テキバキと進行する役員の方々、古希を超えたと思われる大先輩の意気軒昂たるお姿に接し、そこにそれぞれの将来を見出したことでしょう。

米沢市制百年を記念して、将来に残したい建造物を選定しました。その中に山大工学部の旧本館等と共に、本校の旧校舎も選ばれました。昭和十年、この校舎が建てられる以前に、卒業された方も、この校舎で学んだ同窓生も、感慨深いものがあるでしょう。氣質もことばづかいも変わった現在の生徒達を、創立者九里とみ先生はどのようなお気持ちで見守つておられるのでしょうか。軒につららの列が輝く朝、一年の上村まりさんが、県高校スキー大会回転の部で優勝。これは本校スキー部にとって三十三年振りの快挙との報告が、教頭の神原先生からありました。

学園  
近況

伊藤 勉

## 参加者の声

同窓会主催の「学園の米寿を祝う会」が九月十日(日)学校をあげて行われました。この日参加の同窓生は、六八〇名にものぼりました。学園と学友に心を寄せた盛大な会はいつまでも参加者的心にのこりました。その声をひろつてみたいと思います。



九里学園の米寿の祝いに参加して大変感動をいたしました。私立学校の母校ならではの行事で、これ程まで同窓生が足を運ばせるものは教育の中味だったのだと思います。  
私も幸せに家族の協力を受けて社会参加をしております。私の地域にも同窓生がたくさんおり、心強く思っております。

T 13年卒 後藤みゑ（旧姓武田）

### 感謝のことば

同窓会長 竹田カツ

同窓会の皆様新しい時代の初春を健やかにお迎えなされた事と思います。

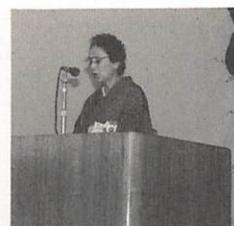
昨年は年の初めから、年号が変わる等、国内外共に色々と大変な年でしたが、同窓会にとっては、母校の八十八周年を祝って心に残る米寿の御祝いの集いを盛大、且つ厳粛に行われた事は誠に喜ばしい限りでした。二年がかりで御準備いただいた委員の方々の涙ぐましい御努力、お忙しいなか時間をさいて御指導・御協力いただきました母校の諸先生方、物心両面での御協力をいただいた関東支部の皆さん、温かい御心を寄せて下さった多くの同窓生の方々、更に、礼儀正しくそして優しく接して下さった在校生の方々、一つ一つに頭が下がり、胸の熱くなる思いでございます。心から感謝申し上げます。

年齢を越え時代を越えて、老いも若きも、青春の一時に立ち返り、思い出話に花を咲かせ、大いに笑い、且つ涙を流したあの感激の一瞬は、何物にもかえがたいものでした。改めて、同窓会のすばらしき絆の強さと自信と誇りを感じた一日でもございました。あの感激を、力を、九十周年・百周年へのかけ橋として、今後益々の御協力をお願いする次第でございます。全国各地で御活躍の皆さん、それぞれの立場で御精進あらん事を祈りつつ、御礼の御挨拶と致します。



夫が残した句「一步の針の道は女性終生の基礎となる」が支えでした。三年間九里的教育を受けたことに感謝しています。八十歳の現在も針を友として生きています。

S 3年卒 須藤ともみ（旧姓梅津）



### 米寿の祝いに参列して

関東支部長 占 部 穂 以

激動の昭和が終わり、平成時代のスタートを切った歴史的な年に、母校の記念式典に参列させて頂きまして万感胸にせまる思いが致しました。祝賀会会場を庄する墨痕淋離たる笛原大祭師御揮毫の八十八寿の大書を仰ぎ見て、母校の輝かしい伝統と洋々たる未来を感じました。

創立者九里先生より、「人を信じる事、そして人様に笑われることのない様に、自分にきびしく甘える心があつてはいけない……」とそれはそれはきびしく教えられました。

例え細目で、とみ先生に採点を頑くには何回もやり直しをさせられ、つらくて情けなくて、母の希望で入学致しましたが、何度も悔やみました事が……。でもそうしたきびしい御教えが精神的な支えとなりまして、敗戦後支那大陸より着のみ着のままで引き揚げまいりましても、落ち込む事もなく、今日を迎えたのでございます。

同窓会主催のこの記念行事は、大盛況で本当にめでとうございました。地元実行委員の方々に心から厚く厚く御礼申し上げます。

私も明治生れで学園と同じく大正・昭和・平成と四代を生きてきました。この祝賀会に参加出来たことは感激です。

ただ、かつて私が同窓会支部活動を一生懸命やつたことを思い出しますと、地域単位でこの催しのお誘いがなかつたことが残念です。

今後の支部活動を特に期待します。

S4年卒 坂 野 と よ



S 24 年卒 片 桐 智 子 (旧姓 石井)

懐かしい皆様方とお会いして、楽しい一時を過ごす事が出来ました。先輩後輩方の想い出の作品の数々、懐かしく拝見してまいりました。

米寿に相応しく、母校での式典は大成功で、出席者全員、明日へのエネルギーになつたに違いありません。

S 34 年卒 池 田 美代子 (旧姓 高橋)



八十八年間という長い歴史を顧みながら、歴史のある高校を卒業することができたことを誇りに思いました。また、これからの中澤女子高校の発展を私達OGが見守り支えていかなければいけない事を痛感させられました。

S 24 年卒 片 桐 智 子 (旧姓 石井)



米寿の祝いの席で思いがけなく、私の担任であつた遠藤柳之助先生の息子さんと会うことが出来ました。今年から学園に赴任されたとのことですが「似ておられる」……もうそれだけで、私の高校生活が思い出され、胸が熱くなりました。

S 42年卒 新野幸子（旧姓安部）



感動で胸がいっぱいになりました。そして学園で覚えた歌の一節が浮かんで来ました。  
「わがとも 今日の良き日の思い出。わがとも 過ぎた日々の思い出。心よく別れ行く道に あかあかと陽は満ちてくる……」

S 53年卒 東海枝智子



# 「四季の歌」は優しい人生の讃歌

## 芹洋コンサート

記念音楽会 9.13

今年の記念音楽会は、米寿の集いの直後で、まだあの感激が余韻をひいているような会でした。私は、夕方のあわただしい中をそそざと会場に向かいました。ドアを開けた。

すると高くて透き通るような声が場内いっぱい響いていました。はまなす国体のイメージソング「北から」と、芹さん自ら作曲されたという「レンゲ草」が心に残りました。また、芹洋子さんの代表歌「四季の歌」は長く歌い込まれたという感じで、会場での大合唱は人生の讃歌に似て、とてもうれしい気分になりました。

(昭和39年卒 佐藤タニ子)



今年の記念音楽会は、米寿の集いの直後で、まだあの感激が余韻をひいているような会でした。私は、夕方のあわただしい中をそそざと会場に向かいました。ドアを開けた。

そして何よりもうれしいことは、国を良くしようと考へている学生達が聴いてくれたことだそうです。

今、ふりかえってみて、あの芹さんの声にバックの演奏が強すぎたのではないだろうかと思います。芹さんの心のメッセージである生の声を存分に生かした方がよいと思いました。

米寿の集いの大イベントの三日後なので、本当にチケットが売れるか心配でしたが、完売の報があり安堵しました。

私にとって今年は、旧交を温めることができましたし、心豊かな秋となりました。

ました。

この人のしつとりとして先が明るくなるような優しい歌唱力はどこからくるのだろうと思ひます。

米沢の情報誌、「赤蜻蛉」のインタビューで芹さんは、こんなことを語っています。「歌詞がきちんとわからなければならぬ」と思つ。歌は三分間のドラマです。そのメッセージをどう聴く人の心に伝えるかだと思つています。」と…。芹さんは中国の学生達に請われて全国各地でコンサートを行つたそうですが、

聴く人はみんな目がキラキラして、歌つている芹さんも子供の頃の気持ちがもうどつて良いコンサートになつた

とのことです。歌つている芹さんも子供の頃の気持ちがもうどつて良いコンサートになつた

## ワイフを語る



昭和の初め、私が窪田小学校に転校してきました。一緒に遊んだ級友の家に、彼の妹でおかっぱの女の子がいました。その女の子が、九里を卒業して横浜洋裁学院（現岩崎学園）に入学のため上京、私の前にひょっこり現れたのです。私は両親の都合であれから函館・横浜と転居し、十数年がたつていきました。おさげ髪のセーラー服をみたときには本当に驚きました。間もなく私は戦争に応召。九死に一生を得て帰國、その女の子（妻のぶ子）と結婚して四十三年になります。

彼女は短気な私とは正反対で、言い争いには決してならない相手です。利口か〇〇かまるでわからないところがあります。お人好しで落ち着いているようですが、そこかしきで、よく鍋を焦がしています。しかし、子育てしながらの彼女の洋裁は長く我家の家計を助けてくれました。自分のものは徹夜して仕上げています。また、趣味で習った和紙人形は展示会毎に苦労しているようです。押し絵に切り絵、そしてボケないよう書道も始めてとにかく忙しい人です。二人共、旅行が好きでよく出かけ、山の仲間と箱根鎌倉と歩いて足腰を鍛えています。私は、妻の母校の米寿を祝う会にも参加させていただきました。

妻は、良き同窓生、そして親しい友も大勢いて幸せ者です。常に苦労の日々でしたが、残り少ない人生を健康で楽しく送られるように頑張つてもらいたいと思つています。

（妻のぶ子 S13年卒）

# 職場訪問



## 白衣姿若々しく

—国立療養所米沢病院—

### 佐藤とくえさんを訪ねて

(S 25年卒)

一月十一日、私は野田博子さんと国立療養

所米沢病院にお勤めの佐藤とくえさんを訪ね

ました。米沢病院は母校より五キロメートル

ほどの所にあり、以前は国立米沢療養所とし

て結核患者の病院でしたが、昭和四十三年に

計画された重症心身障害者病棟が四十六年ま

で百二十床完成、その後老朽病棟の改築が

なされ、五十五年に前記の通り改称され面目

を一新し、現在に至っています。周囲は松林

で自然環境もよくひつそりとしています。

出迎えて下さった佐藤さんは、白衣姿も若々

しく、早速ご案内を頂き、婦長さんにもご挨

拶いたしました。婦長さんは「佐藤さんは一

生懸命なさって下さいますので」との第一声

でした。病院の第一・二・三・五棟には、百

六十名位の患者が入院し、整形外科の子供ら

と他はほとんど寝たきり老人でした。第七・

八・十棟には重症心身障

害者百二十名が入院中で

した。職員は看護婦を含めて二百二十名のこと

です。小中学生の入院患者のための分校も棟続き

です。勤務時間は午前八時三十分より午後五時までですが、食事介助、おむつ交換などのため定

時には帰れなく、また月七・八回は夜勤とのことでした。心身共に健康なれば出来ない事と、



改めて老人問題・家族とかわりあいなど考えさせられました。

佐藤さんは昭和二十五年卒業なさいました。卒業後神奈川県に出て個人病院に勤めながら勉強して看護婦の資格を得た由その努力と精神は、優秀な佐藤さんならではのことと感じ入りました。その後体をこわし帰省されました。

改めて老人問題・家族とかわりあいなど考えさせられました。



## 「日本画」と私

吉良 澄 (S 48年卒)

旧姓 遠藤

故郷の山並が、春夏秋冬、一刻と変化してゆく大自然の素晴らしさが、私の胸中に彷彿とし忘れて去ることがあります。生れ育った風景や風土は、終生消える事が無く、その人間形成に、何らかの影響を及ぼすものなら、私が日本画を始めた理由も、そこにあるのではないか?と改めて思います。

なみなみと満れる鬼面川、凜凜しき吾妻嶺の萌え生ずる新緑、紅葉、そして白一色の世界に覆われた置賜盆地、その鮮やかな色彩に、心打たれ、涙流した青春は、感性の豊かさに結びつくものがあつたようになります。

卒業と同時に、結婚・育児・異郷での人生を選択し、歩む中で、もう一度自分自身に懐かしい故郷の山河を夢みたのではないかと思うのです。

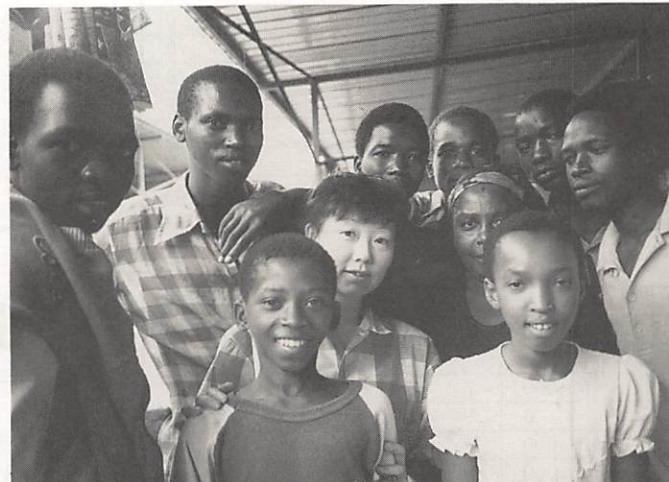
そんな中で、熟した柿の実が落ちる様に、かつてから興味の深かった日本画を学習する機会に恵まれ、師との出会いがありました。女子高校時代に、素晴らしい先生方や友人ととの出会いがあつたように、人との出会いを大切にしながら、一人の人間として、家族以外の為に自分を燃焼させ、無心に没頭できる日本画を、これからも素直に描いてゆければと思います。

(名古屋在住)

# 神様は万人平等 光を与えて下さると いいますが本当でしょうか。

「いいが、のごすな、食べたくても食べられないで、死んでいく子供たちがいるんだぞ。」昼食もそろそろ終わりにさしかかった時の岩根先生からの一言でした。高校一年生の夏、JRCの合宿のひとこまです。

それは私にとって、生涯忘れることが出来ないすばらしい体験でした。真夏の蒸しあつい教室に、ゴザをしいて横になっていた私に心地よい風が吹いてきます。なんと私の隣に团扇を扇いでいる人は先輩だったので。母の愛情にも似たものを感じ、私はうれしくつて胸が熱くなつたのを今でもはつきり覚えて



「いいが、のごすな、食べたくても食べられないで、死んでいく子供たちがいるんだぞ。」昼食もそろそろ終わりにさしかかった時の岩根先生からの一言でした。高校一年生の夏、JRCの合宿のひとこまです。

なんとこの商談中に、どこから集まつて来たのか、ものすごい人だかり。いつも、このような調子です。

ルワンダにはクッカー（コンロ4個とオーブンがひとつになったもの）、冷蔵庫、コーヒーメーカー、ビデオ（テレビ放送はありません）。洗濯機があります。だけど、悲しいかな、これらは90%外人といわれる私たちが使用しているのです。靴をはいている人も、ビーチサンダルをはいている人もいます。裸足の人もいます。一足三百円のビーチサンダ

青年海外協力隊 後藤美智子（S53年卒）

います。

私は今、青年海外協力隊の看護婦隊員として、ルワンダに住んでいます。本当に食べられなくて、死んでいく子供がいるのかを、こちよつびり分けてみようかなと思って…。

中央アフリカ赤道直下、タンザニア・ウガンダ・ザイール・ブルンジの四つの国に囲まれた国です。ルワンダは四国の一・四倍の面積しか持たない小国ですが、アフリカの中で最も人口密度の高い所です。一年を通じ初夏のようなくらしやすい気候です（15～35℃）。

日常会話は、キニヤルワング語（現地語）と、フランス語です。私は、どちらもわかりません。片言のキニヤルワング語とフランス語で、現地のおばちゃんと商談します。1kg 16フラン（27円）のじゃが芋を、15フラン（25円）にしてほしいと。たかが2円そこらのお金なのに、なぜか必死になります。写真是、無事15フランになつたので、友好の印にと撮つたものです。

ます。

一九八九年十一月・十二月の二ヶ月間で、飢餓による死亡者百名を超えたそうです。ルワンダの南部地方では、土地がやせ作物が育たないため、深刻な問題です。このままだと今年三月までに、五百名の餓死が予想されると言われています。

これから、看護婦として活動を始めていくところですが、ありのままを受け止め、その中から、現地の人たちにとつてよいと思われるることは何かをみきわめながら、私の役割を果たして行こうと思っています。

## アフリカ ルワンダからの便り

足の生活で汚いまま、ベッドに横たわります。ベッドはザラザラの土の垢です。入浴などの習慣はありません。水で体を洗うのが常識です。体臭がするのは、仕方ないのかもしれません。

交通機関は、もっぱらタクシーです。十二人乗りのワゴン車に、二十人ぐらい平気で乗ります。もちろん私も、仲間入りします。臭いなんて言つていられません。あとは歩くしかないのですから。（日本からの無償援助の大型バスも相当数はいっています。）「ウイルエ（こんにちわ）」の一言で、会話が盛り上がり、社交の場となります。新しく言葉を教えてもらひながら、目的地に到着します。

病院では、注射針の先が丸くなつた、切れなない針を使って注射しています。まるで釘を打つように見えます。それでも、患者さんはじつとこらえています。国が貧しいというのは、こういう所にも影響していることを、実際に見て初めて知りました。日本では、使い捨て商品で、どんどん新しい物を使つているというのに…。同じ人間で、同じ地球に生まれながら、どうしてこうも違うのか、不思議です。神様は、万人に平等に光を与えて下さるといいますが、本当なのか疑いたくなります。

## 平成元年度 一般会計・更正予算書

〈収入の部〉

(平成元年度10月20日・作成)

項目	当初予算額	更正後予算額	増減
繰越金	194,669	194,669	0
入会金	281,000	281,000	0
終身会費	1,405,000	1,405,000	0
事業収入	50,000	2,547,975	2,497,975
寄付金収入	200,000	500,000	300,000
前受金	1,560,000	1,560,000	0
雑収入	9,331	11,356	2,025
合計	3,700,000	6,500,000	2,800,000

〈支出の部〉

項目	当初予算額	更正後予算額	増減
運営費	410,000	510,000	100,000
事務費	50,000	50,000	0
通信費	50,000	50,000	0
旅費	0	100,000	100,000
会議費	100,000	100,000	0
人件費	100,000	100,000	0
慶弔費	70,000	70,000	0
印刷費	30,000	30,000	0
雑費	10,000	10,000	0
事業費	1,530,000	1,730,000	200,000
総会経費	1,100,000	1,100,000	0
会報発行費	330,000	530,000	200,000
音楽会経費	0	0	0
支部活動補助	100,000	100,000	0
基本金繰入金	0	2,500,000	2,500,000
予備費	200,000	200,000	0
前受金	1,560,000	1,560,000	0
合計	3,700,000	6,500,000	2,800,000



▲同窓会では、問い合わせがあればいつでも答えられるように、きちんとした住所録をつくっています。結婚あるいは転居で住所の変更があれば、学校事務局にお知らせ下さい。

▲米寿の記念誌「追憶」(学園八十八年の写真集)があと僅かですがあります。御希望の方には二千円で頒布いたします。どうぞお申し込み下さい。



### 同窓会1年間のスケジュール

- 4月 平成2年度役員会
- 5月 総会準備委員会(卒業年が0と1のつく学年が当番)
- 6月 同窓会総会、研修会  
関東地区卒業生激励会、関東地区総会(9日上野精養軒)
- 7月 記念音楽会 チケット販売開始
- 9月 記念音楽会(13日)
- 11月 「同窓会報」編集委員会
- 12月 「同窓会報37号」発行、発送
- 2月 同窓会入会式
- 3月 記念音楽会準備委員会(内容の決定)

米沢河童会

### 「米沢方言川柳」より

○苦屋にはあつあえと来る友がいる

○残照の余白はほんじやどう染める

○がおつても居れぬローンの重い枷

○人生はてんでこんでの物語

○人の良さ義理の狭間でえんがみる

○貧政に福祉のしきし寸たらず

○ばっかりの諭吉佗しい歳の暮

○ばつくりびこをファッショナ化してデザイナー

○戻らないぶきたにした日悔やまれる

○とろっぜづ親の積木は崩される

鬼面亭

青蛙

玲月

如夢

角基

玲月

翔太

玲月

知子

玲月

今回の会報は、毎回

のシリーズものの他に

「米寿の集い」の特集

が入りました。是非読

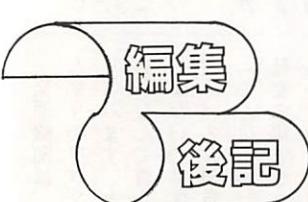
んでみて下さい。

編集をしていますと、

同窓生の方々の活躍が

わかり励まされます。

どうか御意見・御希望をお寄せ下さい。



スタッフ  
須藤昭子 (S 24年卒)  
野田絹代 (S 25年卒)  
博子 (S 28年卒)  
大久保洋子 (S 42年卒)  
山崎千香代 (S 59年卒)